

審議会等の会議結果報告書

課所名

生涯学習課文化センター

会 議 名 第 9 回諏訪市文化センター運営検討委員会

開催日時 令和 8 年 3 月 24 日(火) 17 時 30 分 ～ 18 時 50 分

開催場所 諏訪市公民館 視聴覚室

出席者 【出席者】高見 俊樹委員長、石城 正志副委員長、中島 昌之委員、宮嶋 孝枝委員、木村 修子委員、河西 風花委員、花岡 日珠委員、金子 雄二委員、石田 名保子委員、宮坂 寿子委員
三輪教育長、細野教育次長、小林課長、関沢館長、福田主査
今井みどり教育委員(オブザーバー)

【欠席者】二村 悟委員、牛越 雅紀委員、三澤 凜委員、山田 佳子委員

【傍聴者】一般 3 名、新聞記者 3 社

資 料 資料①: 第 9 回諏訪市文化センター運営検討委員会 次第
資料②: 第 9 回諏訪市文化センター運営検討委員会 説明資料
別紙: 令和 7 年度運営検討委員会のまとめ 説明資料
参考資料: 第 8 回諏訪市文化センター運営検討委員会 会議録

協議議題(内容)及び会議結果(要旨)

1、開会

2、教育長あいさつ

3、会議事項

(1)前回のふりかえりについて

(2)令和 7 年度運営検討委員会のまとめ

(3)リニューアル後のビジョン・運営方針等について

<事務局より資料に基づき報告>

<質疑・意見>

○委員

・ビジョンと運営方針の連動について、運営方針③の居場所づくりも柱の中にしっかり入れるのであれば、ビジョンに明示した方が良いと思う。

(事務局)

・運営方針③の居場所づくりについては、ビジョンの「多世代交流」に位置づけられるという認識だが、伝わりやすいように表現を見直したい。

○委員

・④「文化財としての歴史的価値を体感できる環境づくり」と、⑤「防災拠点として安心・安全に活用できる施設づくり」については、ビジョンのソフト面ではなくハード面の部分になると思うが、運営方針はビジョンのソフト面だけでなくハード面も含めているという認識で良いか。

(事務局)

・その認識である。

○委員

- ・ビジョンに描かれている「自主事業」と「貸館事業」の区別について、左側が自主事業で右側が貸館事業という見方であれば、具体的な取組例とリンクしない部分が出てくると思うがいかがか。

(事務局)

- ・ビジョンに描かれている「自主事業」と「貸館事業」の矢印については、どちら側という区別はなく、全ての取組例を網羅しているイメージで記載しているが、伝わりやすいように表現を検討する。

○委員

- ・貸館事業と自主事業を明確に分けないという考え方なのであれば理解した。

○委員

- ・「貸出区分」について、事業収入の観点からホール系を先に貸し出し、そのあと集会室系を貸し出すというような「優先」の考え方があるが、貸出のタイミングの区切りを考えているようであれば教えていただきたい。

(事務局)

- ・例えば、ホールの予約を先に開始し、集会室の予約をその後にするなど、予約期間をずらすことで優先の考え方を実現したいと考えているが、この部分に関しても検討中なので様々な視点でご意見をいただきたいと考えている。

○委員

- ・ユーティリティスペースとは何のことを指すのか。以前は湯茶を入れる場所があったがそのことなのか。

(事務局)

- ・ユーティリティスペースとは、利用者の休憩スペースや館内の備品を保管する倉庫を想定したスペースのことである。以前 1 階にあった調理室はなくなるが、給湯室は 1 階と 2 階ともに設置する予定。

○委員長

- ・ホワイエの予約について、賑わいスペースとしての期待が高まっているように感じているので、ホールの予約との両立ができるような工夫を検討してほしい。

○委員長

- ・ホワイエでイベントをするための電源はどうなるのか。

(事務局)

- ・ホワイエでイベントが開催できるように従来よりも電源容量を増やす計画である。

○委員長

- ・1 階の楽屋 1 は単独貸出可能とするのか。

(事務局)

- ・基本的にはホール利用者の楽屋を想定しているが、防音かつリハーサル室に隣接しドアでつながっているため、リハーサル室の拡張としての利用も視野に入れている。

○委員長

- ・リハーサル室は時間貸しで、楽屋 1 は区分貸しという想定か。

(事務局)

- ・みなさんのご意見をお聞きしながら、細かい利用規則等は検討していきたい。
- ・細かいことでも結構なので、疑問点などあればこの場で発言いただければ嬉しい。

○委員

- ・ホールとホワイエを別々の団体が借りられるとすると、ホワイエを展示などで長期間借りた場合にホールの予約があれば一旦撤去する必要があるということか。

(事務局)

- ・例えば、展示であればホールの利用があった方が見ていただく機会が増えるメリットがあるということもある。ホールとホワイエの貸出については、様々なパターンを想定しながら検討したい。

○委員

- ・第2 集会室の貸出について、可動壁で分けて借りた場合に比べて、つなげて借りた場合で料金が安くなるなどあれば、利用者として借りやすいと思う。

○委員長

- ・他施設の例では、ホワイエを単独で貸出しているが、ホールの利用があった場合はホワイエの半分はホール利用者に優先されるという運用がある。そういった細かい運用も検討されたい。

(事務局)

- ・利用者が使いやすい料金体系や利用規則を今後検討していきたい。

○委員

- ・ホワイエの展示とホール利用者のバッティングを許すとすれば、他施設で運用している壁面貸しという考え方が参考になると思う。

○委員

- ・運営方針の「専門スタッフの配置・育成」について、専門スタッフをただ配置するだけでなく、市民団体などが関わる中でスタッフが育っていく仕組みが重要になると思う。市民を育ててスタッフにしていくような方針があれば、先行事例を聞く機会を設けても良いと思う。
- ・運営方針の「文化財価値を体感できる環境づくり」について、専門家から「有名建築家が建てた建物でなくても、市民や利用者に愛される施設には価値がある」という話を聞いた。逆を言えば、文化センターについて市民が価値を知らなかったり、市民に愛されない施設だったりすれば魅力は生まれないということ。いかに市民に愛され、未来へ繋いでいくべき施設だということを感じてもらうかが特に重要だと思う。

○委員

- ・入場料を取るなど、営利目的の場合に利用料を上げることは考えているのか。

(事務局)

- ・他施設の例を取れば、入場料の料金によって段階的に利用料を加算するなどもあるので、今後検討していきたいと考えているが、どのような料金体系が良いかアイデアなどがあればお聞かせいただきたい。

○委員

- ・学生でイベントをする場合、入場料を取ると営利目的で利用料が高くなってしまっているので、基本的には無料で開催することが多い。学生が利用しやすい料金体系を検討していただけるとありがたい。

(事務局)

- ・これまでのご意見の中で学生が使いやすい施設というキーワードが出てきている。今のご意見も含めて学生が使いやすいように検討していきたい。

○委員

- ・イベントを開催する場合、準備・片付けが必要になるので、準備・片付けの料金が設定されるのはとても良いことだと思う。ホールだけでなく、集会室でも適用されるともっと良いと思う。

○委員長

- ・入場料ではなく実費徴収の場合でも営利目的とみなされることもある。学生はもちろんのこと、利用者全体に対しても利用しやすいように検討されたい。

○委員

- ・ホール利用者は必ずホワイエを通るはずなので、ホワイエを単独貸しすることは避けるべきだと思う。

○委員

- ・他市の事例で、ある施設を建てる際に、学生たちへの影響を懸念する声が多く断念した例があった。例えば、文化センターを夜ダンスの練習ができる場所にするのであれば、夜に学生がいても安全な場所や雰囲気づくりを市が推進していく必要があると思う。全国的に注目されているユースセンター構想という考え方が、今後若者が集まる場所とするための手がかりになると思う。

4、その他

(事務局)

- ・来年度の運営検討委員会について、委員の任期が7月28日となる。これまでリニューアル後の文化センターの核となる議題については多くのご意見やアイデアをいただいたので、来年度は委員会の終了に向けての総括をしたいと考えている。
- ・日程については、後日事務局で調整の上、別途通知する。

5、閉会